

2017年度第2四半期 業績のご報告



株式会社アイフィスジャパン



- I** 2017年12月期 第2四半期決算概要
- II** セグメント別業績推移
- III** 事業状況について
- IV** 2017年度業績見込み

I 2017年12月期 第2四半期決算概要

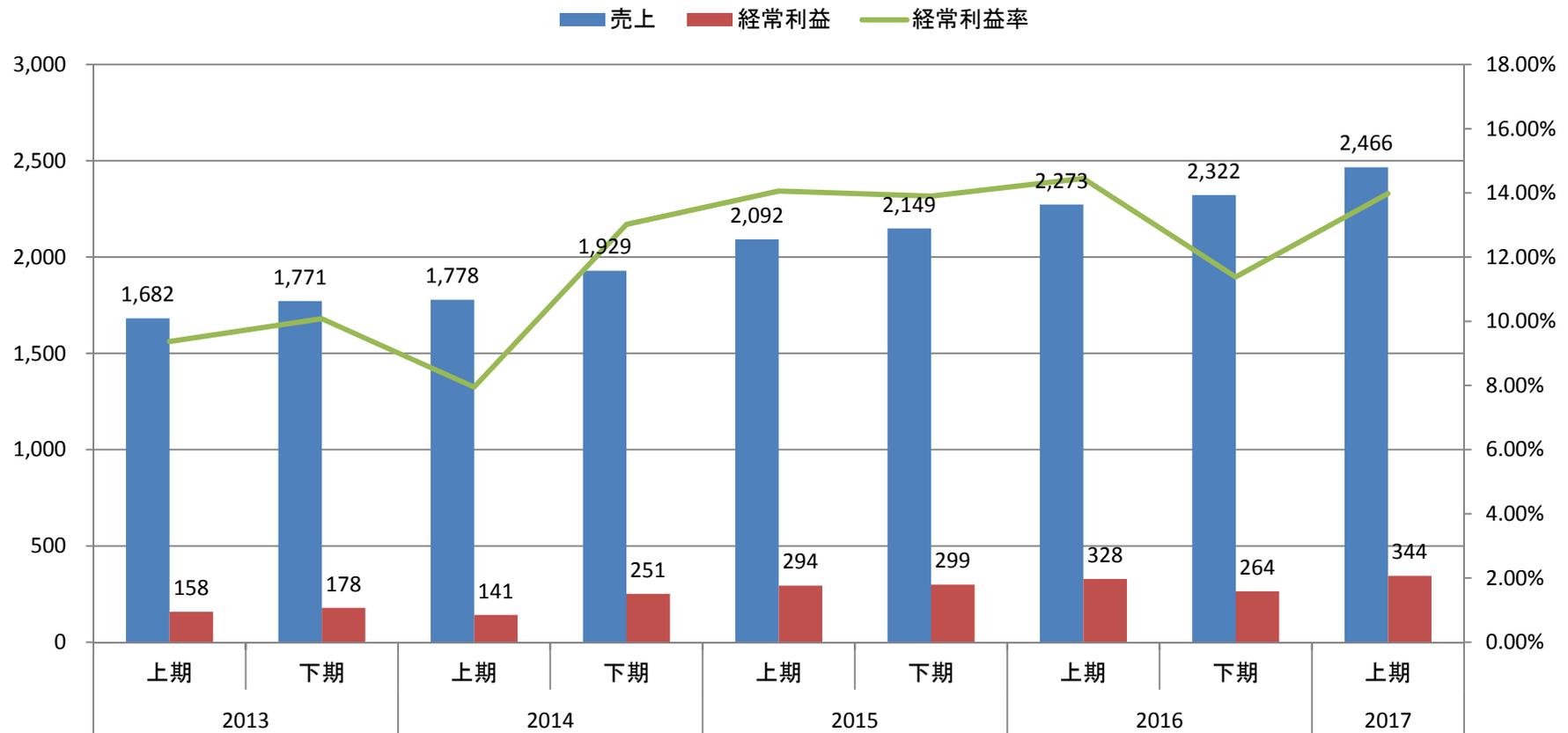
前年同期比増収増益、昨年株式譲受によりグループ参画した株式会社金融データソリューションズの加算分とファンドシスクロージャー事業、ITソリューション事業が堅調
売上については概ね計画通り進捗、営業利益の計画比プラス要因は外注費用削減効果が想定より寄与

(百万円)

	項目	2016年度 第2四半期 実績	2017年度 第2四半期 計画	2017年度 第2四半期 実績	計画比	前期比
連結	売上高	2,273	2,500	2,466	98.6%	108.5%
	営業利益	334	330	345	104.6%	103.3%
	経常利益	328	330	344	104.2%	104.9%
	当期純利益	212	217	214	98.6%	100.9%

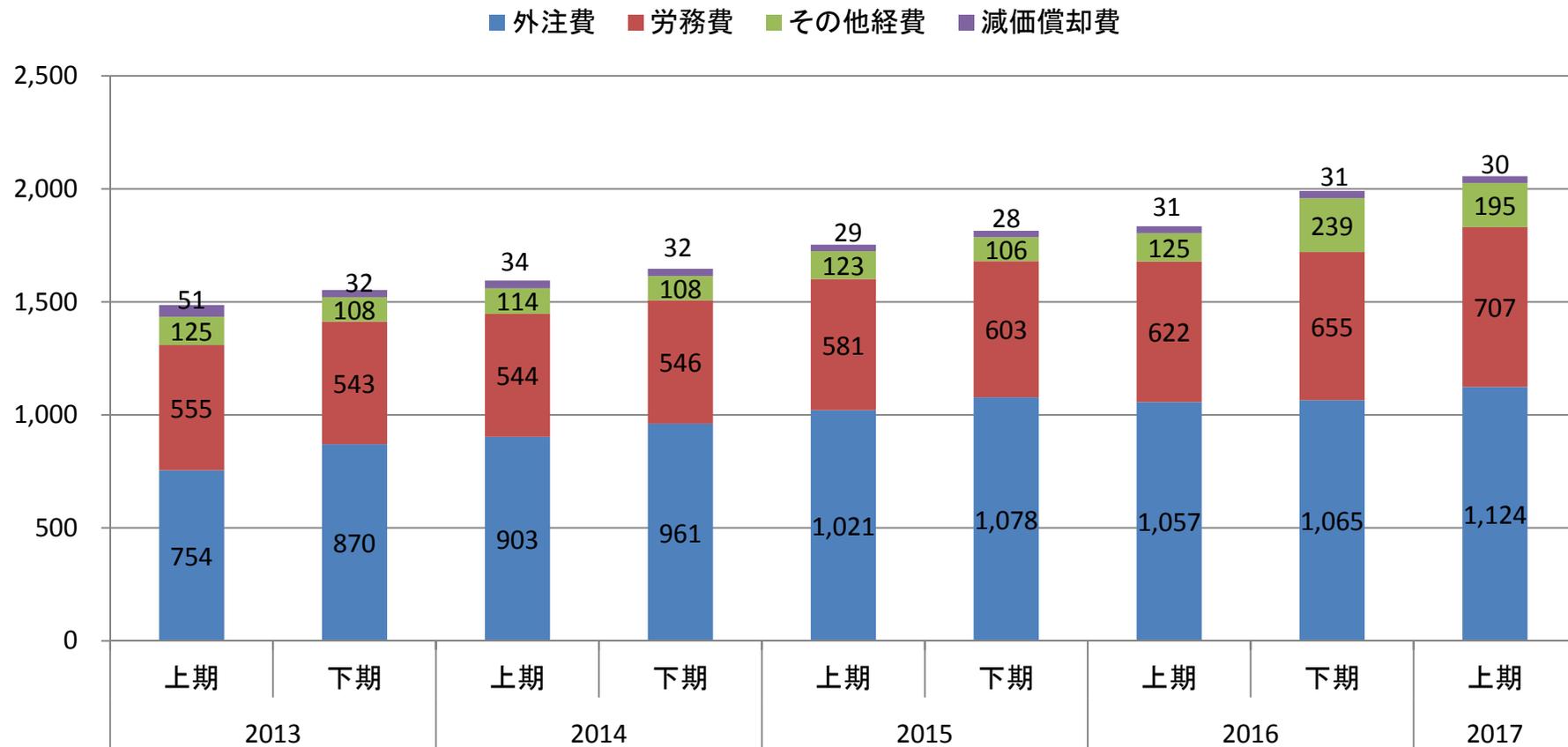
売上高・経常利益・経常利益率（連結）

(百万円)

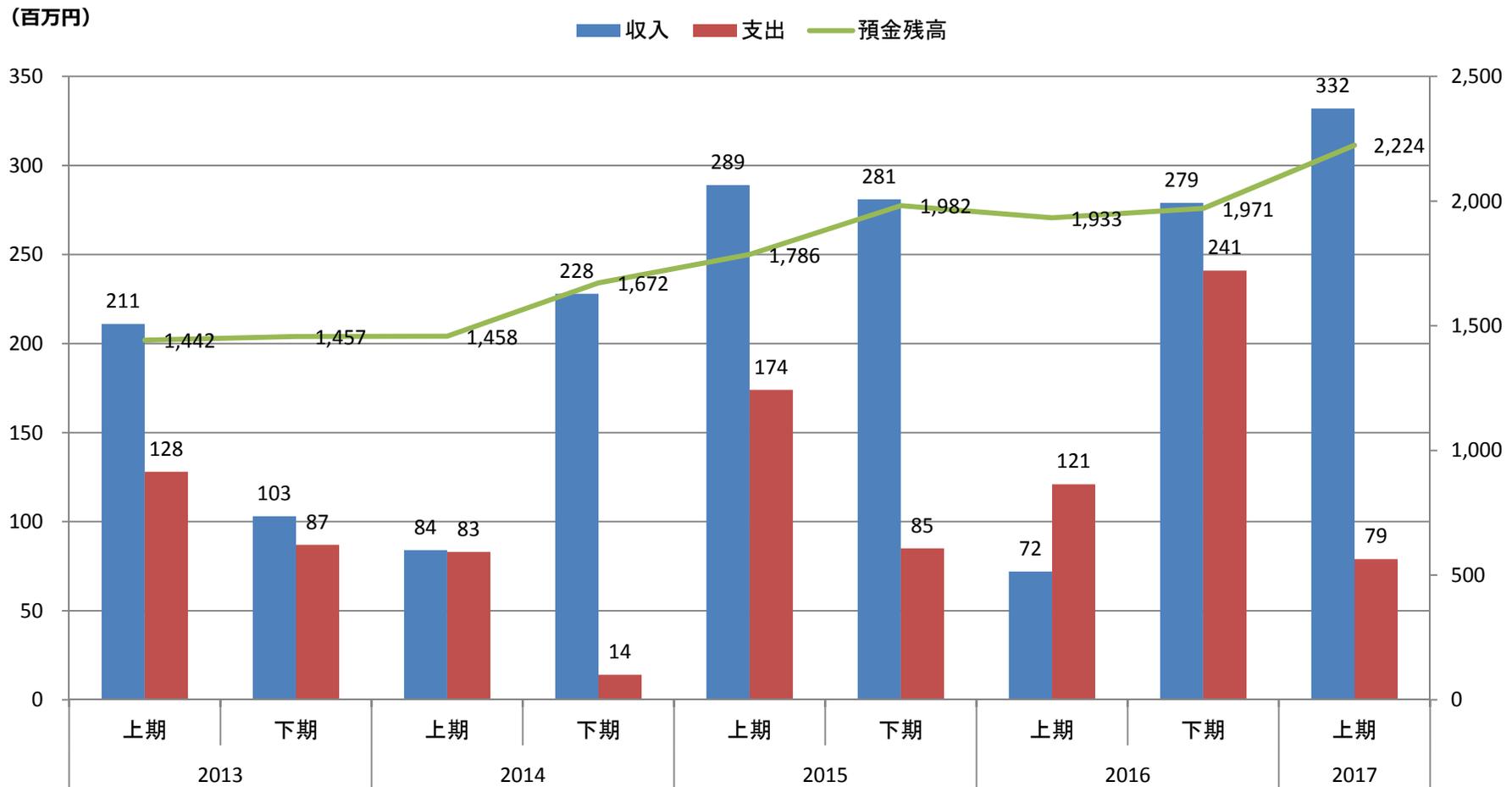


人員増強により労務費増加、その他経費増加要因はオフィススペース増床関連費用増

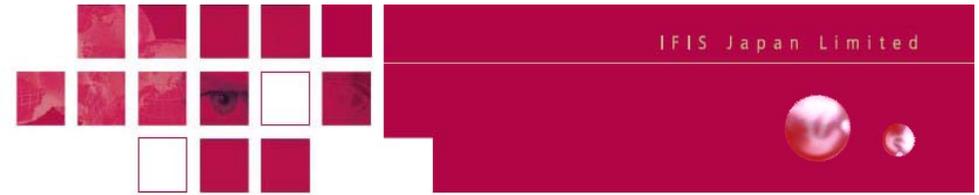
(百万円)



上期は事業譲受等は発生せず、営業キャッシュフローが順調に増加



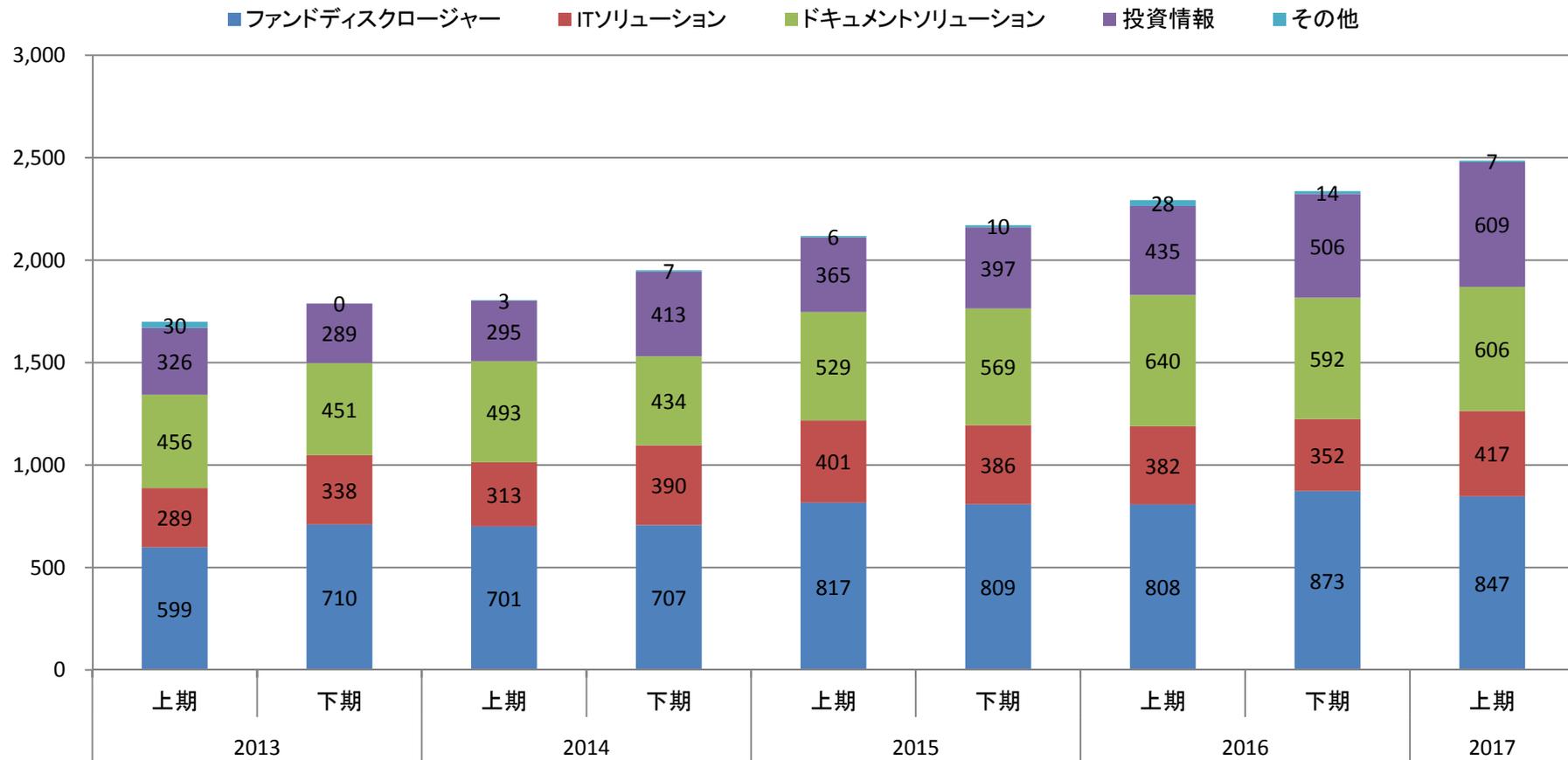
Ⅱ セグメント別業績推移



セグメント	部門/事業会社	主要サービス
投資情報事業	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 投資情報事業 ➢ (株)キャピタル・アイ ➢ アイフィス・インベストメント・マネジメント(株) ➢ (株)金融データソリューションズ 	『Research Manager』 証券調査レポート閲覧サービス 『Consensus Manager』 アナリスト業績予想コンセンサスデータ閲覧サービス 『Consensus Data Service』 コンセンサスデータサービス 『CE News』 プライマリーマーケットニュース 『CE Data Base』 プライマリーマーケットデータベース 『NPM Services』 機関投資家向け投資運用業務支援アプリケーション 『証券調査レポート作成システム』 証券会社調査部門向けレポート作成システム 『株予報』 自社メディア 『Safe-Rich』 投資助言による銘柄抽出および解説
ドキュメントソリューション事業	<ul style="list-style-type: none"> ➢ ドキュメントソリューション事業 ➢ (株)東京ロジプロ ➢ (有)プロサポート ➢ (株)アイコス 	金融関連印刷配送サービス Fax/E-mail同報配信サービス 『W2Pクラウドサービス』 翻訳・通訳サービス
ファンドディスクロージャー事業	<ul style="list-style-type: none"> ➢ ファンドディスクロージャー事業 	投資信託印刷関連サービス 確定拠出年金サービス
ITソリューション事業	<ul style="list-style-type: none"> ➢ ITソリューション事業 ➢ (株)インフォーテック 	金融ソリューション 受託開発 VBマイグレーション

セグメント別売上推移

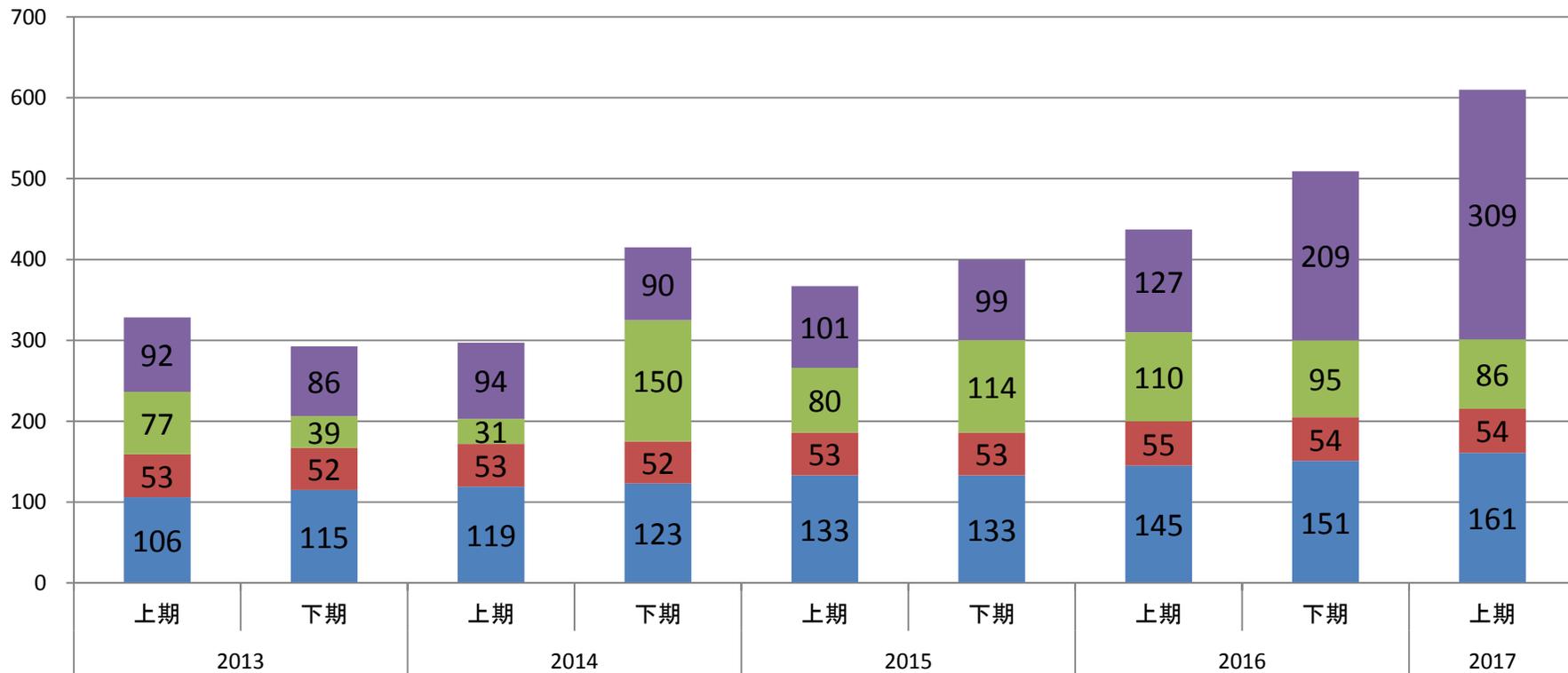
(百万円)



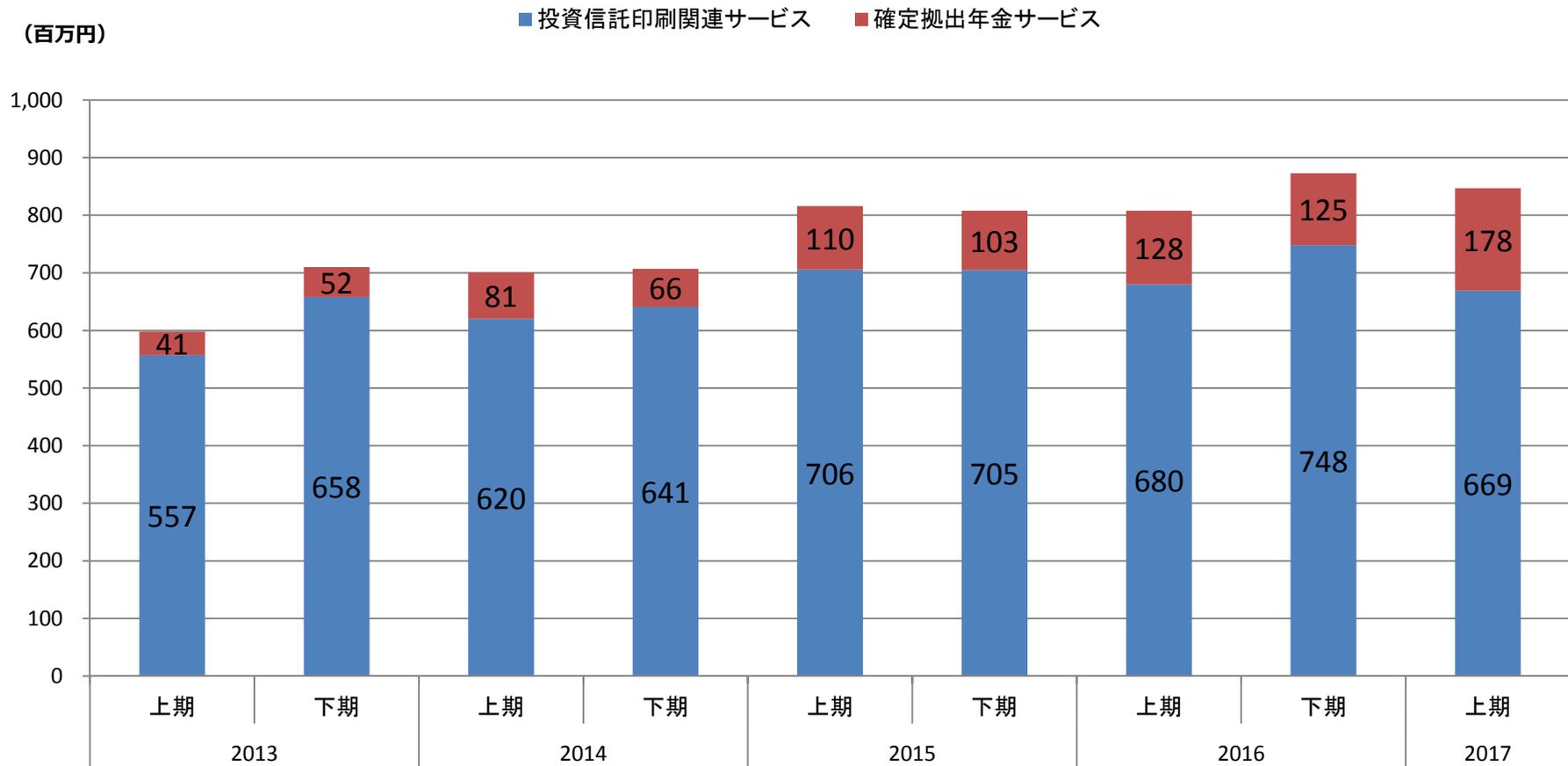
◆ 前年同期比売上増の主要因は、「その他」の2016年8月、株式譲受した、(株)金融データソリューションズによる増加分

(百万円)

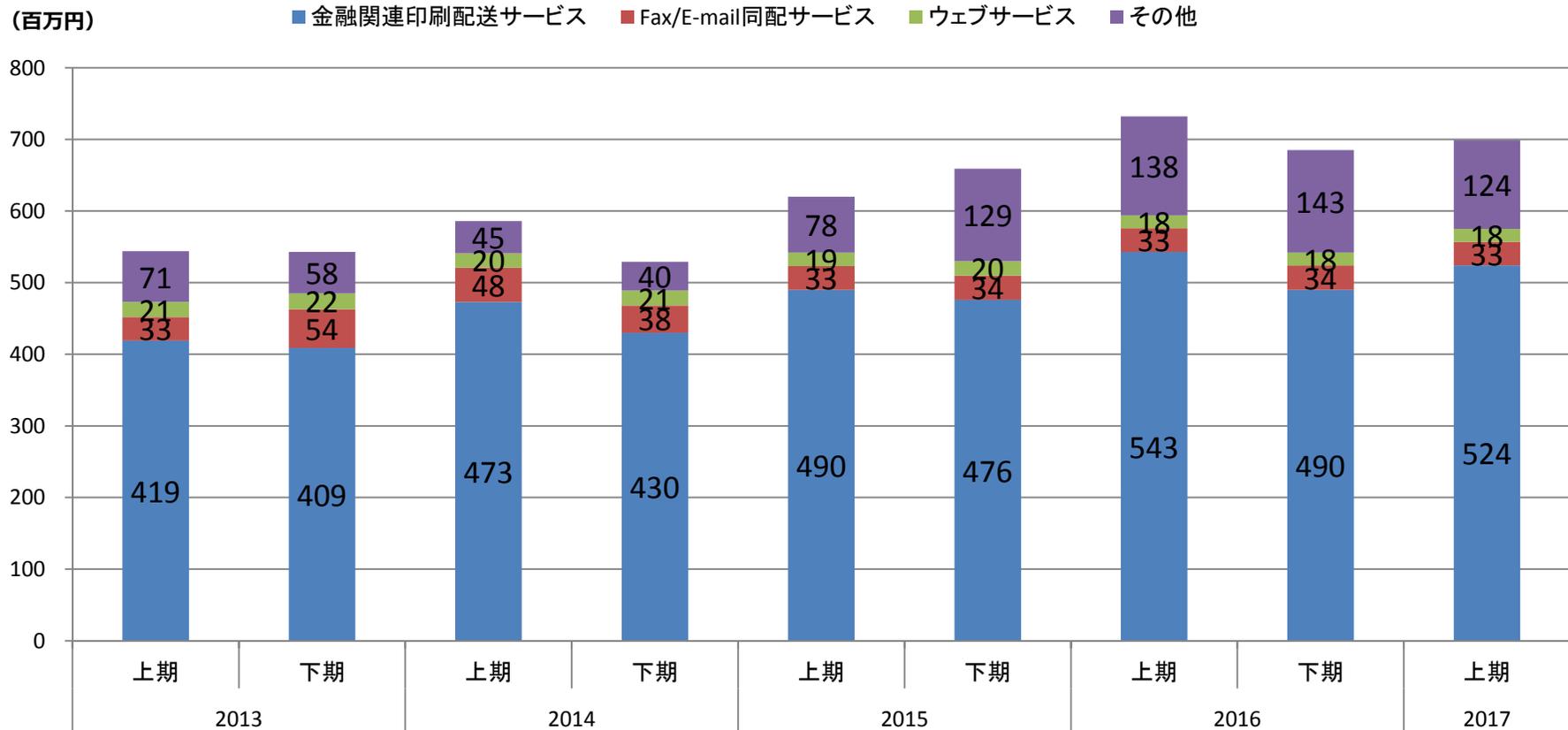
■ Consensusサービス ■ Research Manager ■ システムソリューション ■ その他



◆ 前年同期比売上増の主要因は、「確定拠出年金サービス」の新規顧客受注による増加

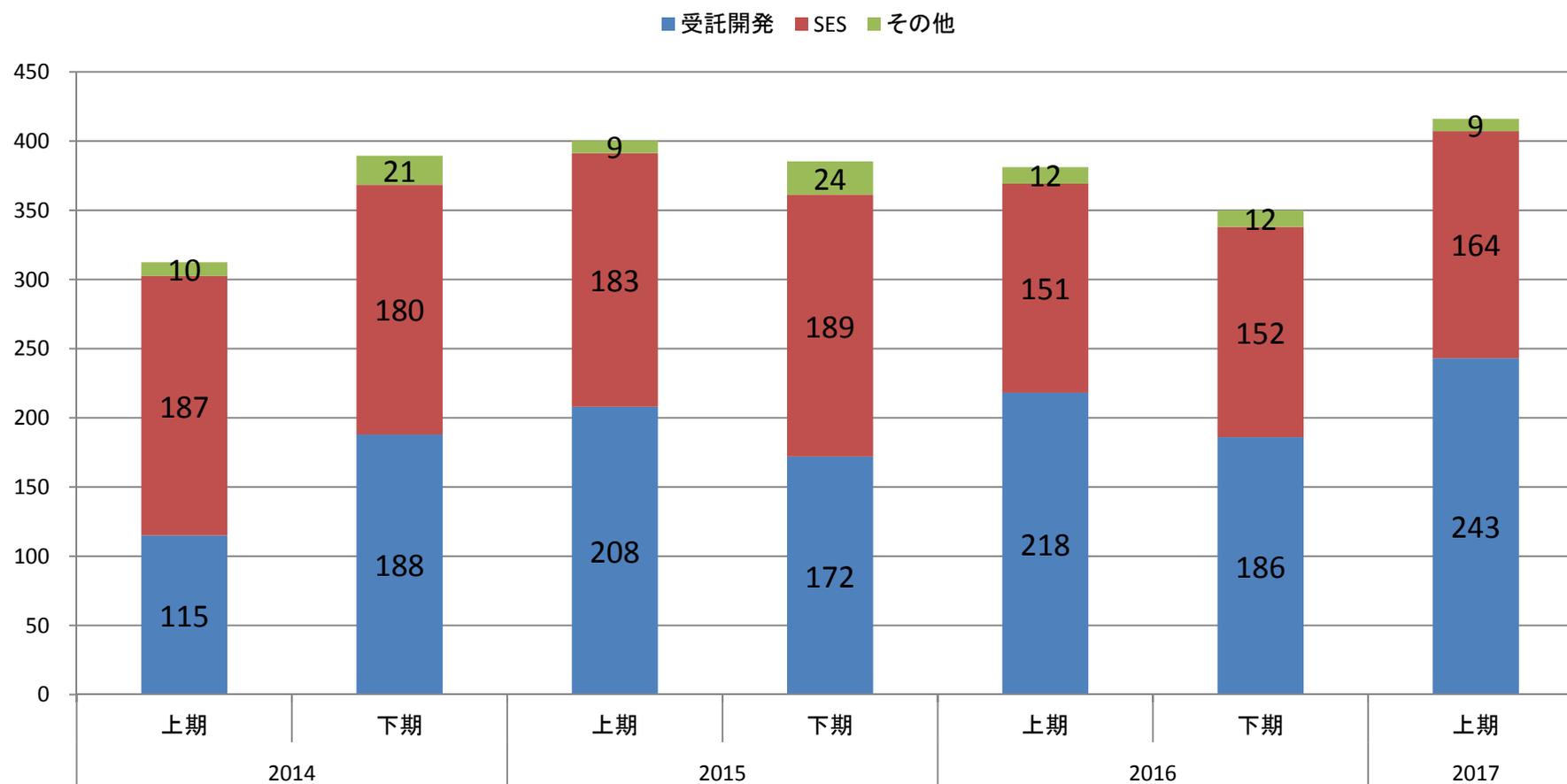


◆ 前年同期比売上減の主要因は、「その他」のW2Pクラウドサービスの大型案件分

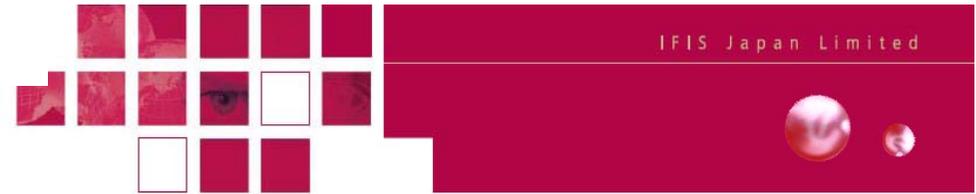


◆ SES若干持ち直し、受託開発好調

(百万円)



Ⅲ 事業状況について



◆個人投資家向け情報提供サービス「株予報」 独自コンテンツ『トレンドシグナル』拡充
～金融工学的アプローチにより、全ての国内株式銘柄のトレンドを判定～

【個別銘柄情報】



■トレンドシグナル

「リスクオン相対指数」の日々の変化をパターン分類します。
現在のパターンを判定し、パターンに応じたシグナルを発信します。

■リスクオン相対指数

デルタヘッジ戦略を取る場合に算出する理論的なヘッジ比率データを活用して生成した独自指標です。リスクオン・オフの状態を表現しています。
(0~1の幅で表現)

グラフの見方

数値が上昇する局面は「リスクオン」
下降する局面は「リスクオフ」に向っていることを意味します。

数値が0に近い場合は「フルヘッジ」

(=売り余力が無く底値圏)

1に近づけばヘッジポジションをほとんど外している

(=上昇余力が無く高値警戒圏)

といった捉え方ができます。

◆～AIと自然言語処理技術により決算やアナリスト情報を自動分析、テキストと関連データを組み合わせることでニュースとして配信～

積水ハウス(1928)

決算発表 2017/06/09 15:00 平成30年1月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結) ④

2018年1月期連結第1四半期、経常損益35,471百万円、IFISコンセンサスを下回る水準。

【業績予想/決算速報】積水ハウス(1928)が6月9日に発表した2018年1月期第1四半期の経常損益は35,471百万円、直近のIFISコンセンサス(37,000百万円)を4.1%下回る水準だった。また同日発表された業績予想によると通期の経常損益は前回予想を据え置き、2.8%増益の196,000百万円を予想、IFISコンセンサスとほぼ同じ水準となっている。尚、中間の経常損益は75,000百万円を予想している。

決算期	区分	発表日	売上高	営業利益	経常利益	当期利益
201701 本	会社実績	2017/03/09	2,026,931	184,164	190,984	121,853
!	201801 本	会社予想	2,144,000	192,000	196,000	128,000
	201801 本	従来予想	2,144,000	192,000	196,000	128,000
	201801 本	コンセンサス	2,195,555	191,950	197,004	127,727
!	201707 中	会社予想	970,000	75,000	75,000	49,000
	201707 中	従来予想	970,000	75,000	75,000	49,000
	201707 中	コンセンサス	1,004,600	84,100	--	58,100
!	201704 Q1	会社実績	440,708	33,895	35,471	25,816
	201704 Q1	コンセンサス	466,300	35,950	37,004	24,200
	201707 Q2	コンセンサス	529,000	49,300	51,106	33,500

※単位は百万円、!は今回発表内容

業績要因	業績要因は決算短信から自動で作成 詳細はこちら
(不動産フィア事業)不動産フィア事業では、賃貸住宅事業における順調な物件供給もあり債和不動産各社による賃貸住宅「シャーマン」の一括借り上げ及び管理受託戸数が堅調に増加するとともに、高水準な入居率を維持致しました。	
新規販売物件では「グランドマン新編田タワー」(大阪市北区)、「グランドマン品川シーサイドの杜」(東京都品川区)等の売上が順調に推移するとともに、物件の引渡しも計画通りの進捗となりました。	
<国際ビジネス>(国際事業)米国では、フロリダ州タンパ等の宅地の販売が好調に推移し、オーストラリアでは、「セントラルパーク」(シドニー)の第2期開発のマンションの引渡しを開始致しました。	
賃貸住宅「シャーマン」に対して長期安定経営に寄与するリフォームの提案を積極的に対応致しました。	

①

②

③

① 会社発表の実績値を発表前の会社予想やコンセンサスと比較したニュースを自動で生成します。

② 適時開示より抜粋した決算・業績予想の数値を表で示します。アナリスト予想がある銘柄の場合、アナリスト予想の平均値である“コンセンサス”と比較します。

③ AI技術により、業績に影響を与えたと推測される記載を決算短信から抽出し、重要なものを表示します。(※)

④ ニュースの元となった適時開示PDFを閲覧できます。

※成蹊大学 理工学部情報科学科 言語情報研究室の研究成果を使用しています。

IV 2017年度業績見込み

2017年12月期（連結）

項目	2016年度 (実績)	2017年度 (予想)	前年比
売上高(百万円)	4,596	5,000	109%
営業利益(百万円)	588	630	107%
経常利益(百万円)	592	630	106%
当期純利益(百万円)	373	400	107%

2017年12月期（単体）

項目	2016年度 (実績)	2017年度 (予想)	前年比
売上高(百万円)	3,053	3,150	103%
経常利益(百万円)	514	470	91%
当期純利益(百万円)	337	300	89%